

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】

2018年3月1日配信（No. 54号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@ml.mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

- 「第36回EST創発セミナーin宇部〔中国〕」を開催しました。
(中国運輸局)
- 「第8回地域公共交通東北仕事人会議」を開催しました。
(東北運輸局)
- 広島県呉市にて産学官の連携により「安全運転サポート車&公共交通体験会」を開催しました。
(中国運輸局)
- 第69回さっぽろ雪まつり 大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場しました！
(北海道運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

「第36回EST創発セミナーin宇部〔中国〕」を開催しました。

(中国運輸局)

平成30年1月31日(水)、山口県宇部市にて『EST創発セミナーin宇部』を宇部市・交通エコモ財団と共催し、公共交通事業者や自治体などから約180名が参加しました。

このセミナーは、環境的に持続可能な交通(EST: Environmentally Sustainable Transport)を推進するため、全国各地で開催しているものです。今回のテーマは、マイカーには無い公共交通ならではの「楽しみ」や「価値」を見つけるといふものであり、全体を通して講師やパネリストの方々が非常に楽しそうに講演や意見交換をされていたのが印象的でした。

中国運輸局交通政策部長、宇部市長、エコモ財団より開会にあたっての挨拶の後、講演①「子どもと楽しむ公共交通」と題し、呉工業高等専門学校の神田教授から公共交通と子育てとの関わりについて実験をもとにご講演いただきました。小さい子どもを持つご両親にとっては公共交通の利用はハードルが高いように思えるかもしれませんが、公共交通を利用する中で色々な事を学習するきっかけになるというご提案をいただきました。

講演②「私の鉄道・バスの楽しみ方」では、交通ジャーナリストの鈴木文彦氏にご講演いただきました。1950年代からご自身が撮影してこられたバスや電車の写真をもとに、現在に至るまでの地域交通の変遷を振り返りながら、誰にでもわかりやすい交通のあり方についてのご説明をいただきました。

その後、事例紹介として山口大学大学院 創成科学研究科の鈴木春菜准教授より、宇部市のモビリティ・マネジメントのとりくみについての紹介がありました。バス・電車の時刻表を一つにした「ハイブリッド時刻表」や山口県のバス会社が実施している「ハートのつり革バス (<http://www.ubebus.jp/information/post-387.html>)」など、既存のものでも工夫次第で利用促進に繋げることが出来るということをご説明いただきました。



パネルディスカッションでは、宇部市の公共交通の活性化をテーマに、宇部市交通局の古谷係長やJR宇部線利用促進協議会の伊藤会長を交えた意見交換を行いました。宇部市交通局では、バスを楽しむイベントとして小学生を対象に「ミステリーバスオリエンテーリング」を開催しており大変好評とのことで、担当者がイベントで登場する「バスマン」のポーズを披露し、会場に笑いが起こる場面もありました。

中国運輸局の北川交通企画課長は、大人が楽しめるコンテンツとして「食事、お酒、温泉」があり、いずれも公共交通との親和性は高く、上手く需要とマッチさせることでさらなる利用促進に繋げることが出来るのではと提案しました。

また、会場からは、宇部線ではほとんどが無人駅となる中で、草江駅で取り組んだ「駅舎アート (http://www.city.ube.yamaguchi.jp/houdou/sougou_seisaku/h29/akisya_art_kusae.html)」のように駅舎の有効活用が親しみや愛着といった感覚的な付加価値に繋がるのではといった意見もあり、予定時間に収まりきれないほど白熱した議論が繰り広げられました。

宇部市では、昨年10月に地域公共交通再編実施計画を策定し、公共交通の利便性と効率性の双方を向上させるための具体的な取り組みを実践していく段階にあり、宇部市の公共交通を更に『愉しく、わかりやすく』するため、これからも関係機関が一丸となって取り組んでいこうということで一致し、本セミナーは幕を閉じました。

<プログラム>

開会挨拶（中国運輸局、宇部市、エコモ財団）

講演①「子どもと愉しむ公共交通」（呉工業高等専門学校 教授 神田 佑亮）

講演②「私の鉄道・バスの愉しみ方」（交通ジャーナリスト 鈴木 文彦）

事例紹介：宇部市のモビリティ・マネジメントの取り組み

（山口大学大学院創成科学研修所 准教授 鈴木 春菜）

パネルディスカッション「みんなで愉しむ宇部の公共交通」

パネリスト：呉工業高等専門学校 教授 神田 佑亮

交通ジャーナリスト 鈴木 文彦

JR宇部線利用促進協議会 会長 伊藤 一統

宇部市交通局 企画営業係長 古谷 信弘

中国運輸局 交通政策部 交通企画課長 北川 由佳

コーディネーター：山口大学大学院創成科学研修所 准教授 鈴木 春菜

なお、本セミナーでの講演資料等は、後日、ESTポータルサイトに掲載される予定です。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu2017.html>

「第8回地域公共交通東北仕事人会議」を開催しました。

(東北運輸局)

東北運輸局では「地域公共交通東北仕事人制度」(※)を活用し、東北地方全体の地域公共交通活性化に向けて取り組んでいるところです。この度、平成30年2月2日(金)に、第8回目となる「地域公共交通東北仕事人会議」を開催し、仕事人が携わっている取組事例の共有や活動報告、最新の地域公共交通に関するトピックスについて意見交換等を行いました。

今回、弘前大学大学院地域社会研究科 北原啓司研究科長のご推薦により、同研究科の村上早紀子客員研究員を新たに「地域公共交通東北仕事人」に登録しました。村上研究員からは「交通空白地域を育てる住民交通の維持に向けて」と題して、交通サービスと並行して地域づくり活動を実施する岩手県北上市口内地域のNPO法人の事例などを踏まえ、中山間地域や過疎地域における今後の展望について研究報告をいただき、その後、報告内容について他の仕事人と活発な意見交換を行いました。



仕事人からの事例発表及び意見交換では、福島大学の吉田准教授より「タクシーを活用した小さな交通の実装に向けて」をテーマに、福島県白河市で行われている「より道きっぷ(行き→より道→帰りを定額料金としたタクシーの切符を旅行会社が発券)」の実証実験、南相馬市の定額タクシー「みなタク(<https://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/6,39155,29,422,html>)」を例に挙げ、公共交通機関が十分に整備されていない地域におけるタクシーの「隙間」時間に着目した需要喚起と「くらしの足」の確保の両立を目的とした取組を紹介いただきました。

また、交通ジャーナリストの鈴木氏からは貨客混載についての発表があり、岩手県北バスが行っている「ヒトものバス(http://www.iwate-kenpokubus.co.jp/uploads/27.9.29_gooddesign.pdf)」を初めとした全国各地の貨客混載事例や今後の検討課題、さらには交通空白地やドライバー不足に苦しむ地域でこそ貨客混載を導入すべきといった将来の展望についても言及いただきました。

今回で第8回目となる仕事人会議ですが、仕事人同士が毎回新鮮な公共交通のトピックスを持ち寄り、白熱した意見交換を行っております。東北運輸局では、今後も東北地方の公共交通活性化に向けて、仕事人制度の周知を引き続き行って参ります。

※地域公共交通東北仕事人制度とは・・・

地域公共交通に対する熱意とノウハウを有した学識者、NPO、自治体職員等の人材ネットワークです。仕事人同士がアイデアを出し合い、お互いの情報を共有するとともに広く地域に発信しています。地域公共交通東北仕事人のリストはこちら↓↓↓(東北運輸局ホームページ)

<http://wwwtb.mlit.go.jp/tohoku/ks/newpage/ks-sub06-03.html>

広島県呉市にて産学官の連携により

「安全運転サポート車&公共交通体験会」を開催しました。

(中国運輸局)

今年度、中国運輸局では高齢者の移動手段の確保に関する調査を実施しており、その一環として、平成30年2月20日(火)に呉市の呉工業高等専門学校で「安全運転サポート車&公共交通体験会」を開催しました。

全国で高齢者の運転する車の事故が増えている中、運転免許証の返納者は増えておりますが、返納後の移動手段の確保が重要な課題となっています。また、事故を減らしていくために、国としても安全運転サポート車(サポカー)(<https://www.safety-support-car.go.jp/>)の普及啓発を進めており、自動ブレーキ等のサポート機能を正しく理解していただくことと、バスの利用促進のための乗り方教室を一度に体験できる会としました。

はじめに、

- ・「公共交通の利用で健康を維持していこう」(呉工業高等専門学校 神田教授)
- ・「100円でバスが乗車できるいきいきパス(※)」(呉市介護保険課)
※<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/15/shisei040730.html>
- ・「安全運転サポート機能を正しく理解して事故を防ごう」(広島県警察本部)
- ・「歩行者の交通安全について」(日本損害保険協会中国支部)

の4つの講義を受けた後、グループに分かれて、サポカーの「衝突被害軽減ブレーキ」と「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」体験、バスの乗り方教室、広島県全域で導入されているバスロケーションシステム「BUS i t(バスイット)(<https://busit.jp/>)」を体験いただきました。座学後に体験することで、参加者の理解も深まった様子でした。



講義の様子



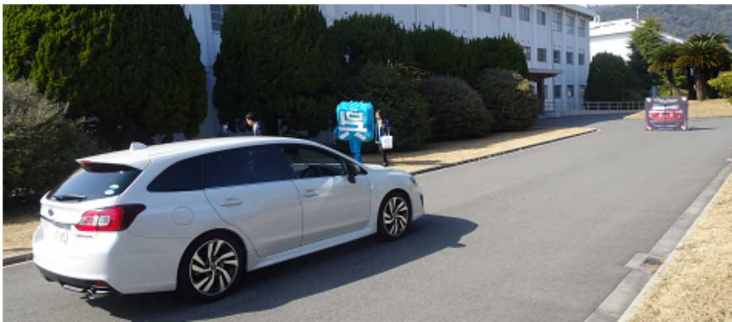
広島県呉市のキャラクター「呉氏」も参加のりたろうは都合により参加できず…

今回の体験会は、サポカー体験は自動車ディーラー3社に、バスの乗り方教室は呉市内を運行しているバス会社に担当していただいたほか、体験会の会場として敷地を開放いただいた呉工業高等専門学校及び地元自治体である呉市や広島県バス協会、広島県警など産学官の多様な主体の連携により、開催が実現しました。関係者それぞれがこれまでに実施してきた体験会等の経験を持ち寄り、会場の提供やプログラム全体の監修、参加者の募集等について協力し合い、産学官それぞれの機関の持ち味を十分活かすことができたイベントとなりました。

サポカー体験



(ダイハツ広島販売株式会社)



(幸誠スバル販売株式会社)



(広島トヨタ自動車株式会社)

今回は、呉市に在住する高齢の方々80名に御参加いただきましたが、みなさん「ひさしぶりに学校という空間にきた」とうれしそうでした。学生たちとふれあうことにより世代交流も実現し、楽しんで体験をしていただけたと思います。

「今後も参加したい」、「ぜひうちの学校でも実施して欲しい」など継続した取り組みを期待する声もいただいており、一定の成果を上げることができたのではないかと考えております。

このような体験の企画についてご質問がありましたら、お気軽に中国運輸局までお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ>

中国運輸局交通政策部交通企画課 TEL : 082-228-3495



バスの乗り方教室
(広島電鉄株式会社)



第69回さっぽろ雪まつり

大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場しました！

(北海道運輸局)

平成30年2月5日(月)～2月12日(月)に開催された第69回さっぽろ雪まつりで、北海道運輸局雪像プロジェクトチームが、公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」の雪像を制作しました。

前号までのメールマガジンでお伝えしてきたとおり、これまでは粘土を使ってミニサイズののりたろうを作るなどして準備を進めてきましたが、雪まつり開催5日前となる1月31日、いよいよ雪像作りがスタートしました！

のりたろう本人を招いて、鍬入れ式ならぬスコップ式を執り行い、無事に雪像制作が進むよう祈願した後、採寸を行い、雪像上部の荒削りを行っていきます。技術指導員から指導を受けながら、まずは丸い顔の輪郭を作ったあと、本格的な削り作業を行い、全体の形を作っていきます。頭・胴体・腕・船・・・細部までこだわって削ります。顔のパーツを彫り込み、頭にパンタグラフを設置すると、高さ3メートルののりたろうの姿に。最後に水を含ませた雪を貼り付け、更にヤスリをかけて仕上げ作業を行い、制作最終日である2月4日15時半に雪像のりたろうが見事完成しました！



1月31日(水)



予想以上に進んだものの、のりたろうにはまだ見えず。

2月2日(金)



本格的に削り始め。船の雰囲気が出てきた。

2月3日(土)



顔のパーツやパンタグラフがついた。

2月4日(日)



表面をなめらかに磨いて完成！



素人軍団による制作ではありましたが、開催期間中、多くの方がのりたろう雪像に会いに来てくださいました。のりたろうをきっかけに公共交通の利用促進に関心を持って頂ければ幸いです。

来年の雪まつり会場への来場も「公共交通にのろう！」

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



